

平成14年度事業

事業記録

日 付	内 容
平成14年 4月 4日	平成13年度第2回通常理事会
4月24日	平成13年度第2回通常評議員会
4月25日	CURRENT Vol. 3, No. 1発行
5月 6日	協力事業：わんぱくフェスティバル(大月町主催)：タッチングプール出展
5月 9日	協力事業：土佐清水市立下の加江中学校に講師派遣
5月14日	鹿児島大学野呂先生招聘：研究所付近の海藻相調査
5月14～15日	協力事業：宿毛市立小筑紫中学校に講師派遣
5月18日	協力事業：第11回国際交流会 IN 大月（大月町主催）にて磯の観察会：講師派遣
5月25日	協力事業：高知の海を泳ぐウミガメ（足摺海洋館主催）講師派遣
5月24～25日	協力事業：大手の浜サンゴ観察会（大手の浜なぎさの会主催）：講師派遣
5月30日	協力事業：大月町立榎西小学校に講師派遣
6月14日	高知県海洋局より特別採捕許可下る
6月17日	協力事業：大月町立姫ノ井小学校に講師派遣
6月20日	平成13年度西海町サンゴ移植6ヵ月後調査
6月22～23日	協力事業：足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティア研修会（環境省自然環境局山陽四国地区自然保護事務所主催）：講師派遣
6月27～29日	研究所前にてサンゴ一斉産卵（採卵）
7月 2日	竜串海中公園地区サンゴ群再生対策調査準備会（竜串）
7月13日	研究所前にてサンゴ一斉産卵（採卵）
7月22～23日	研究所前にてサンゴ一斉産卵（採卵）
7月24～25日	協力事業：大月町立大月中学校2年生ふれあい宿泊体験学習（研究所）
7月25日	CURRENT Vol. 3, No. 2発行
7月26日	第1回竜串海中公園地区サンゴ群再生対策調査検討会（竜串）
7月29日	平成14年度第1回通常理事会
8月 1日	第1回平成14年度竜串海中公園地区の保全活用に伴う竜串集団施設地区の管理方針検討会（竜串）
8月5～7日	第1回黒潮生物研究所サマースクール開催：参加者数25名
8月13日	高知県より「特定公益増進法人」に認可される
8月24日	協力事業：榎西海岸での磯の生き物観察会&スノーケリング，アウトドアワンダーランド IN 四国西南（大月町主催）：講師派遣

日付	内容
9月12日	第1回大月町新エネルギービジョン策定委員会（大月）
9月13日	第2回竜串海中公園地区サンゴ群再生対策調査検討会（竜串）
9月28日	協力事業：第12回コーラル&フィッシュウォッチング（足摺宇和海国立公園大月地区自然保護ボランティア協議会主催）：講師派遣
10月22～23日	ウニを除去することによって藻場が復元できるかどうかを調べる実験開始
10月31日～11月2日	日本サンゴ礁学会2002年大会参加
10月24日～11月7日	平成14年度西海町サンゴ移植
10月25日	CURRENT Vol. 3, No. 3発行
11月9日	足摺宇和海国立公園指定30周年記念式典（竜串）にて感謝状授与される
11月11日	平成14年度西海町サンゴ移植：1週間後調査
11月15～17日	第13回日本ウミガメ会議（阿南）参加
11月18日	第2回大月町新エネルギービジョン策定委員会（大月）
11月25日	新エネルギーシンポジウム（大阪）に参加
11月29日	協力事業：大月町立周防形小学校に講師派遣
12月5日	平成14年度西海町サンゴ移植：1ヵ月後調査
12月14日	益野川河川災害復旧等関連緊急河川環境調査
12月17日	協力事業：大月町立姫ノ井小学校に講師派遣
12月18日	平成13年度西海町サンゴ移植：1年後調査
12月24日	第1回奈半利港海岸サンゴ検討委員会（奈半利）
平成15年 1月20日	竜串自然再生事業準備会議（竜串）
1月24日	第3回大月町新エネルギービジョン策定委員会（大月）
1月25日	CURRENT Vol. 3, No. 4発行
2月13日	第2回奈半利港海岸サンゴ検討委員会（奈半利）
2月14日	第4回大月町新エネルギービジョン策定委員会（大月）
2月27日	平成14年度第1回、第2回通常評議員会
2月28日	竜串自然再生事業準備会議（高知）
3月13日	第3回奈半利港海岸サンゴ検討委員会（奈半利）
3月28日	平成14年度第2回通常理事会（大阪）

事業の内容

【研究所管理運営】

1. 特定公益増進法人の認可

かねてよりの懸案であった特定公益増進法人の認可申請を行い、8月13日付で認可された。

2. 研究環境の整備

研究にあたり必要な、通年にわたる特別採捕許可を得るため、県海洋局、漁協など関係機関に説明等の運動を行い、6月14日付で許可を得た。

【研究関係】

1. 造礁サンゴの飼育技術と増殖技術の研究

・クシハダミドリイシの受精卵からの飼育

放卵から1年後に100群体以上生残させることを目標に、研究所地先でクシハダミドリイシを主体とする卵を採集し、飼育を行った。2003年3月末日現在10群体のサンゴが生残して、直径10mmに育っている。100群体以上生残させることはできなかったが、今まで欠けていたサンゴ飼育に必要な条件が新たに解ってきたので2003年度はうまくいくのではないかと考えている。

・プラヌラの着生実験、基盤の材質再検討

御影石、サンドブロック、テラコッタ、赤レンガ、ベルギーレンガ、耐熱レンガ、樹脂プレート、セメント板、石こう板、板状に固めた漆喰、ホタテの貝殻、板状に加工したサンゴ礁、ケイ酸カルシウム板など計13種類の素材を同じ水槽に設置し、プラヌラの着生数を比較したところ、従来から使用しているケイ酸カルシウム板は5cm²当たり30～50個体のプラヌラが着生したのに対し、他の素材では5cm²当たり2～4個体と、ケイ酸カルシウム板の10分の1以下の着生数だった。今回比較した結果からはサンゴの着生基盤にはケイ酸カルシウム板が一番良い結果が出たが、2003年度にも継続実験を行う予定。

・受精卵の冷凍保存の可能性を検討する

サンゴ卵冷凍保存技術の確立を目指して、冷凍及び解凍法を調査・検討し、6月27日に産卵された受精卵を使って初めて冷凍試験を行い、7月14日に解凍試験を行った。解凍後正常に発生が継続した卵はなく、冷凍法について改良が必要であることがわかった。2003年度継続研究を行う予定。

・クシハダミドリイシの配偶子形成ならびに生殖周期に関する研究

造礁サンゴの人工増殖を考える上で必要な繁殖生理・生態の把握を目的として、生殖腺の組織学的観察に基づいたクシハダミドリイシの生殖周期に関する研究に着手した。2002年はおもに産卵日前後における生殖組織の経時的な変化を観察するため、研究所地先の海で標識を付けた9群体のクシハダミドリイシについて、産卵前から産卵後にかけて経時的なサンプリングを行った。あわせて夜間の潜水観察を行い、各群体の放卵の有無も観察した。標識をつけた群体の産卵は6月27日から6月28日にかけてと7月23日に観察された。6月15日から9月19日にかけて計15回のサンプリングを行い、6月27日には産卵当日の時間的な変化を見るため、1日5回のサンプリングを行った。

また、組織標本作製に先立ち、前処理として必要なサンゴの脱灰方法を検討した。通常のブアン氏液への長期間液浸である程度の効果は得られたが、骨格組織が密である群体基幹部の脱灰には不十分であった。そこで四塩化酢酸（トリクロロ酢酸）を用いたところ5%程度の溶液に数時間液浸することで良好な効果が得られることが分かった。

今後はこれまで得られたサンプルの処理を進めると共に、配偶子がつくられる時期を特定すべく、産卵期前から産卵期にかけてのサンプリングを継続する予定。

2. 幡多地域の動植物相に関する研究

・大型海藻草類

沿岸に生育する大型海藻草類のリストを製作するために、潜水作業により海藻を採集して69個体のさく葉標本を製作した。標本は図鑑等により同定を行い、一部は鹿児島大学の野呂先生に同定していただいた。5月には野呂先生を研究所に招き、研究所周辺と宿毛湾で海藻の採集調査を行った。

また、マンタ法による調査を行い、西泊漁港から古満目崎までの間における、ホンダワラによる藻場のある場所が明らかになった。

・刺胞動物

花虫綱イシサンゴ目とウミトサカ目を中心に採集を行い、標本を作製した。

・棘皮動物

ウニ目、ナマコ目、ウミシダ目、クモヒトデ目の採集を行い、標本を作製した。

・幡多地域のサンゴ等分布調査

研究の基礎資料とするため、マンタ法により幡多地域全域のサンゴの分布を明らかにすることを目的とする。本調査は概ね5年に1回の頻度で行い、サンゴの分布密度の高い地点、特異なサンゴ群集の存在する地点、その他必要な地点を抽出して毎年モニタリング調査を行う事により、幡多地域全域のサンゴの状況を把握する。

今年は夏期の天候不順等の影響で、大月町南岸の一部の海域と土佐清水市の竜串海域でしか調査が行えなかった。

・陸上植生

陸域の植生調査を行い、海岸の植物の樹種と分布について調べた。調査した場所は幡多の海岸の山1カ所で、海に面した山の斜面にはウバメガシが優先しており、1箇所の山の斜面においても標高と海からの距離によって、生えている樹種やサイズが違うことがわかった。

3. ウミガメ関係

・幡多海域ウミガメの回遊経路、成長、および死亡頭数に関する研究

日本近海を回遊するアカウミガメ、アオウミガメ、タイマイに関しては、生息場所、回遊経路については、これまでに部分的にしか明らかになってない。そこで、定置網において混獲されるウミガメに標識を装着して放流し、回遊経路を解明することにした。また、放流時に体長を計測し、再捕獲時と比較して、径時成長について調べることにした。調査は、前年に引き続き貝の川漁港の定置網と、今年から新たに以布利漁港の定置網を加え、2つの定置網で行った。定置網の漁業者とは良好な関係を持つことができた。

その結果、貝の川と以布利を合わせて11個体のウミガメに標識を装着し、体長を計測して放流することができた。なお、放流した個体の内の3個体は、それぞれ竜串、宇和島、生見海岸で最捕獲されたという情報を得ることができた。しかし、成長に関しては、放流して再捕獲されるまでの日数があまりにも短かったために、調べることができなかった。放流の情報は、ウミガメ協議会に報告し、現在全国的に行われている標識放流の研究の一端を担うことができた。なお、ウミガメのDNAを得るために、放流時に5個体のウミガメから肉片を採取した。

また、日本近海で死亡するウミガメの頭数についても、これまでに詳しく分かっていない。そこで、古満目漁港の中層定置網における死亡頭数を調査し、さらに浜

に打ち上げられるウミガメの情報を集めた。その結果、中層定置網での死亡を8件、死体が浜に打ち上げられたことが2件、明らかになった。なお、死亡したウミガメのうちの7個体については、餌料の解明のために解剖して、胃内容物を採取した。採取した胃内容物は、固定して標本とした。死亡したウミガメの頭数については、日本ウミガメ協議会に報告し、現在全国的に行われている死亡個体数に関する研究の一端を担うことができた。

・四国南岸の海岸環境とウミガメの上陸・産卵状況、孵化状況の関係の研究

土佐清水市の爪白の浜、桜浜の2カ所の浜において、ウミガメの上陸・産卵状況を調べた。その結果、桜浜は上陸回数3回、産卵回数1回、また、爪白の浜は上陸回数6回、産卵回数2回であることがわかった。また、孵化率に関しては、桜浜でおよそ90%、爪白の浜は卵が流出したことがわかった。

また、各地で聞き取り調査を行い、これまでに調査されていない浜における、現在及び過去のウミガメの上陸・産卵状況の情報を集めることができた。さらに、高知沿岸の各地のウミガメの調査者と連絡をとり、全体的なウミガメの上陸産卵状況を把握することができた。

また、四国南岸の海岸環境について調べた。海岸線の環境を把握することは、ウミガメの上陸・産卵と浜の環境との関係について明らかにするためだけでなく、今後海や陸のさまざまな生物の調査をする上でも、基礎となる情報を得ることができると考えられる。昨年は宿毛市の福良川～大方町の吹上川までの総延長約126kmの海岸線の調査したが、今年は引き続き、大方町の吹上川～芸西村の琴ヶ浜と、宿毛市の福良川河口～城辺町の岩永までの総延長150kmの海岸線を調査した。調査項目は、浜の高さ、奥行き、長さ、堆積土砂の粒径組成、植生帯、離岸堤、擁壁、夜間の発光源とした。その結果、四国南岸には、長さ、高さ、奥行きの小さい、粒子の粗い浜が多く存在し、粒子の細かい浜は1級河川の河口周辺に多いということが明らかになった。人工物がまったくない浜は全体の14%であり、植生帯の状態と生えている植物の種を明らかにすることができた。また、海岸線を全体的に見ると、ウミガメの上陸産卵にはあまり向いていない海岸線であることがわかった。

4. その他

・檜西海岸におけるヒメアサリの配偶子形成過程と生殖周期の研究

2001年よりはじめたヒメアサリの配偶子形成過程と生殖周期に関する研究。檜西海岸（大月町）で月一回程度の調査を行い、生殖腺の組織学的観察用のサンプリングを行うと共に1×1mの方形枠内に出現する個体数とその殻長組成を調べた。2002年は計10回の調査を行ったが、得られたサンプルは現在液浸固定して保存しているが、来年度、これらの標本の切片組織標本を作成して頭書の研究のまとめを行う。

・ウニを除去することにより藻場の復元を図る研究

周防形と古満目の2カ所の調査地において、ウニの除去試験を行い、海藻の生育状況を調べた。実験にあたっては、漁協に計画書を提出して同意を得、実験地の選定のための調査を行った。

実験は10月に開始し、2ヶ所の調査値に各10×10mの実験区と対照区を設け、実験区では1ヵ月に1回の割合でウニを除去し、実験区と対照区の花藻類の種別の被度を記録している。実験開始が秋になったため、今年度、はっきりした差異は見られていない。3年程度継続予定。

- ・相模灘およびその沿岸地域の動植物相の経時的比較に基づく環境変遷の解明の調査研究
国立科学博物館 相模灘調査実行委員会が主催して行っている標記研究に、館外研究者として岩瀬が参加した。平成13年度に相模灘で採集され、送付されたヤギ類29標本について分類学的・文献学的検討を行い、中間報告(業績の欄参照)を行った。本研究は平成17年度まで継続される予定。

【広報・啓蒙活動】

1. 第一回黒潮生物研究所サマースクール - きみも小さな研究者 -

開催場所：研究所およびその周辺

開催期間：平成14年8月5日13時～8月7日13時(2泊3日)

目的：雄大な幡多の自然にふれ親しむことで、子供たちの環境や生き物に対する興味と関心を育て、人間と自然のつきあい方について考えてもらう。

主催：黒潮生物研究所

共催：大月町 大月町教育委員会

後援：高知県文化環境部環境保全課 高知県教育委員会 愛媛県教育委員会
高知新聞社 愛媛新聞社 RKC高知放送 KUTVテレビ高知 西泊郵便局 西泊婦人会

協力：NHK 高知放送局 ダイビングショップミウラ 河内山商店 大月パークボランティア ほか

参加人数：県内外の小学校4～6年生25名(別紙参加者名簿を参照)

主な内容：8月5日 押し葉絵はがきづくり 飯盒炊さん キャンプファイアー

8月6日 磯の生き物観察「テーマ：食べる」 海水浴 バーベキュー
スイカ割り大会 ビデオ鑑賞

8月7日 クイズラリー 感想文

2. 財団ホームページの運営

2001年度に引き続き財団ホームページの運営・管理を行った。ホームページを使ってサマースクールの参加呼びかけなどを行った。2002年度はホームページの更新頻度がたいへん少なかったため、今後はさらに内容を充実させていくと共に、更新の頻度を増やし研究所の情報の発信源として機能するようにしていきたい。

3. 協力事業

- ・5月6日 わんぱくフェスティバル(大月町主催：大月町・弘見)：タッチングプール出展
- ・5月18日 生き物観察会，第11回国際交流会 IN 大月(大月町主催：大月町・西泊)：講師派遣
- ・5月24日 修学旅行生スノーケル指導，神奈川県立向の丘工業高校機械科生徒25名(足摺宇和海国立公園大月地区自然保護ボランティア協議会：大月町・尻貝)：講師派遣
- ・5月25日 高知の海を泳ぐウミガメ(足摺海洋館主催：土佐清水市・竜串)：講師派遣
- ・5月25日 大手の浜サンゴ観察会(大手の浜なぎさの会主催：夜須町・手結)：講師派遣
- ・6月22,23日 サンゴの話及びスノーケリング講習法，足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティア研修会(環境省自然環境局山陽四国地区自然保護事務所主催：大月町・周防形)：講師派遣
- ・8月24日 檜西海岸での磯の生き物観察会&スノーケリング,アウトドアワンダーランド

- IN 四国西南（大月町主催：大月町・檜西海岸）：講師派遣
- ・9月28日 第12回 コーラル&フィッシュウォッチング(足摺宇和海国立公園大月地区自然保護ボランティア協議会主催：大月町・尻貝)：講師派遣

4. 学校教育関係

- ・大月町立 大月中学校
 - 7月24日 サンゴの話，2年生：ふれあい宿泊体験学習(大月中学校主催：大月町・西泊)
- ・土佐清水市立 下の加江中学校
 - 5月9日 日本産アカウミガメの生態と保護活動について，全校生徒(2時限)
- ・宿毛市立 小筑紫中学校
 - 5月14，15日 伊予野川と周辺の海の水質，1年生
- ・大月町立 周防形小学校
 - 2月5日 サンゴってどんな生き物？，全校生徒
 - 11月29日 周防形のサンゴと魚について，5・6年生（5名）
- ・大月町立 檜西小学校
 - 3月7日 自分の選んだ仕事について，6年生（5名）
 - 5月30日 性をかえる生き物 - カンモンハタの性転換 - ，全校生徒
 - 4日12日 今在家遠足 磯の生き物観察，全校生徒
- ・大月町立 姫ノ井小学校
 - 6月17日 共生について（ヤドカリとイソギンチャクのはなし），4年生（5名）
 - 12月17日 サンゴを守る取り組みについて，4年生（5名）

【受託・請負事業】

1. 竜串海中公園地区サンゴ群再生対策調査
 - 発注者：高知県
 - 受注者：財団法人 黒潮生物研究財団
 - 金額：500,000円（税込）
 - 内容：竜串海中公園地区において実現可能な水害対策の具体的内容と経費の検討
 - 期間：平成14年7月12日～9月30日
2. 平成14年度サンゴ移植事業
 - 発注者：宇和海海中資源保護対策協議会
 - 受注者：財団法人 黒潮生物研究財団
 - 金額：916,320円（材料代込・税込）
 - 内容：西海町の海中公園区域内へのサンゴ移植技術指導及び事後調査
 - 期間：平成14年10月24日～平成15年2月28日
3. 平成14年度竜串海中公園地区の保全活用に伴う竜串集団施設地区の管理方針検討調査
 - 発注者：環境省自然環境局山陽四国地区自然保護事務所
 - 受注者：財団法人国立公園協会
 - （岩瀬が嘱託研究員として調査に参加する形をとる）
 - 金額：1,168,950円（人件費＋借料損料＋器具消耗品費として・税込）

内 容：足摺宇和海国立公園竜串地区の自然資源（主として海中環境）の現状把握と竜串集団施設地区の展開方針検討：単年度2ヶ年調査の最終年度
期 間：平成14年7月5日～平成15年3月20日

4．益野川河川災害復旧等関連緊急河川環境調査委託業務

発注者：高知県土佐清水土木事務所

受注者：財団法人 黒潮生物研究財団

金 額：150,150円（税込）

内 容：災害復旧工事に伴って益野川から流出している濁水の影響を知るための基礎調査

期 間：平成14年12月12日～平成15年1月20日

5．海中公園地区等保全活動事業

発注者：環境省

受注者：財団法人 自然環境研究センター

足摺宇和海海域に関して財団法人黒潮生物研究財団に再発注

金 額：950,000円（税込）

内 容：足摺宇和海国立公園内の海中公園地区及び近隣海域でのオニヒトデのモニタリング及び、必要なら駆除計画を立てて駆除

期 間：平成15年2月10日～3月24日

【その他】

1．企業実習生の受け入れ

高知工科大学（1名）、高知女子大学（1名）、鹿児島大学（2名）の企業実習生を受け入れ、研究所業務を実践的に研修してもらった。

2．研究所利用者

下記のとおり研究所の有料利用者があった。

大学教授	4名
大学助手	1名
大学研究員	1名
大学院生	4名
大学生	5名
専門学校生	4名
一般研究者	4名
合 計	23名

利用目的は、

大学生企業実習	4名
卒業研究	4名
生物資料採集	6名
研究一般	2名
視 察	7名
合 計	23名

で、延べ137日人の利用だった。

3. ウミガメ情報ネットワークの構築

四国南岸でウミガメを調査している人、浜の環境を見ている人、ウミガメの人工孵化・子ガメの放流会に取り組んでいる中学校などと情報を交換して、ウミガメ情報ネットワークを作りたいと考えている。今年度は、昨年度に加えて、入野の浜の吉村氏、興津の浜の浜崎氏、春野の自然を守る会、桂浜水族館ともウミガメの話題で交流をもつことができ、昨年度から交流があった人達とも引き続き情報を交換し合うことができた。また、放流会を行っている中学校の先生を誘って、第13回日本ウミガメ会議に参加した。

4. ウミガメ（タイマイ）の剥製の製作

定置網で混獲され死亡したタイマイを譲り受け、剥製を作成した。

5. 清里自然解説指導者研修（環境省主催）参加

10月1日～10月5日 自然解説員指導者研修・入門コース（田中）

11月4日～11月8日 自然解説員指導者研修・実践コース（中地）

6. 各種委員等就任

行政機関等からの委嘱を受けて、下記の委員に就任し、委員会等に出席した。

- ・大月町地域新エネルギービジョン策定委員（大月町・UFJ 総合研究所設置）（岩瀬：副委員長）

9月12日 第1回委員会（於大月町役場）

10月31日 高知県西部地域新エネルギービジョン策定調査「各市町村のオピニオンリーダーによる意見交換会」出席（於宿毛市役所）

11月18日 第2回委員会（於大月町役場）

11月25日 地域新エネルギービジョン交流会・新エネルギーシンポジウム2002出席（於大阪府立国際会議場）

1月24日 第3回委員会（於大月町役場）

- ・足摺宇和海国立公園竜串自然再生推進計画調査にかかる調整会議（環境省山陽四国地区自然保護事務所設置）（岩瀬：委員）

11月12日 第1回打合せ（於土佐清水市竜串福祉センター）

- ・奈半利港海岸サンゴ検討委員会（高知県安芸土木事務所設置）（岩瀬：委員）

12月24日 第1回委員会（於奈半利町役場）

7. NPO 法人黒潮実感センターの理事に就任（岩瀬）

設立発起人の神田・山岡両氏の要請を請けて、NPO 法人黒潮実感センターの理事に就任した。なお、従来から当財団の評議員に就任していただいている山岡氏に加え、神田氏にも当財団の評議員に就任していただいた。

8. 資格取得

- ・丙種高圧ガス製造責任者：平成14年2月6日（林）

- ・四級小型船舶操縦士：平成14年8月2日（中地）

平成14年度業績

【著作】

財団和文機関誌「CURRENT」

- ・ Vol. 3, No. 1 (2002年4月25日発行)
 - 小尻貝の泥土除去について, p. 2-4: 林
 - 見残し湾の水害対策について, p. 5: 岩瀬
 - 幡多 Botanizing(2) 研究所の裏山 スルギ山, p. 6-7: 田中
 - サンゴ学入門(5) サンゴを食べる生き物 その1 オニヒトデ, p. 8: 岩瀬
 - 海のたより, 山のたより, p. 9: 中地
 - ヘラとトバセ, p. 10: 中地
- ・ Vol. 3, No. 2 (2002年7月25日発行)
 - サンゴ学入門(6) サンゴを食べる生き物 その2 シロレイシガイダマシ類, p. 2-3: 岩瀬
 - 何回あるのか! サンゴの産卵, p. 4: 林
 - 海のたより 山のたより, p. 5: 中地
 - 鉛筆カマスにナツメとアキメ, p. 6: 中地
- ・ Vol. 3, No. 3 (2002年10月25日発行)
 - 移植したクシハダミドリイシの成長, p. 2-3: 宮崎勝年(足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティア)
 - 第一回黒潮生物研究所サマースクールを終えて, p. 4-5: 中地
 - タコクラゲの観察, p. 6: 山口千幸(高知女子大学 学生)
 - 海のたより 山のたより, p. 7: 中地
 - 祭りの太鼓と大漁旗, p. 8: 中地
- ・ Vol. 3, No. 4 (2003年1月25日発行)
 - ウミガメの産卵から見た四国南岸の海岸環境 その1 ~浜の規模について~, p. 2-3: 田中
 - サンゴ学入門(7) サンゴを食べる生き物 その3, p.4-5: 岩瀬
 - ハマナデシコが揺れる浜, p. 6: 中地

その他著作

- ・ 中地シュウ, 2002, 黒潮生物研究所, 幡多発見(幡多広域観光推進協議会), p. 41-42
- ・ 岩瀬文人・神田優・深見公雄・山岡耕作・余吾豊 2002.03 海の環境教育副読本「黒潮実感! 島が丸ごと博物館 大月町・柏島」(黒潮実感センター設立委員会), 冊子とCD-ROM, 13pp.
- ・ 岩瀬文人, 2002.07, 高知県南西部のウミガメ事情, 紀伊半島ウミガメニュース(紀伊半島ウミガメ情報交換会), No.28
- ・ 岩瀬文人, 2002.10, 生命をまもる粘液(3)サンゴ礁生態系を支えるサンゴの粘液, いのち - 生命(帝国臓器製薬株式会社), (29):8-9
- ・ 岩瀬文人, 2003.01.25, 新連載 とことん知りたい!! ソフトコーラル講座, 月刊アクアライフ1月号増刊マリンアクアリスト(マリン企画), N0.26, p.64-71

【講演等】

- ・ 林 徹, 2002. 10. 31, 水害によりクシハダミドリイシ群生域に流入した泥土の除去, 日本サンゴ礁学会第5回大会 (東京: 東京工業大学): 口演
- ・ 岩瀬文人, 2002. 03. 10, クラゲの話, 竜串ダイビング組合講演会 (竜串ダイビング組合主催: 土佐清水・竜串): 依頼講演
- ・ 中地シュウ, 2002. 11. 15, サンゴという生き物について, 幡多地区精神障害者定期交流会 (大月町・西泊): 依頼講演
- ・ 田中幸記・岡田幸生・桂浜水族館・下の加江中学校・浜崎千尋・春野の自然を守る会・船口石夫・吉村脩, 2002. 11. 16, ウミガメの産卵から見た四国南岸の海岸環境, 第13回日本ウミガメ会議 (徳島: 蒲生田市): 田中口演
- ・ 田中幸記, 2002. 12. 14, ウミガメの話, (足摺宇和海国立公園大月地区自然保護ボランティア協議会忘年会: 大月町・尻貝): 依頼講演

【調査報告書等】

- ・ 相模灘の刺胞動物相の研究, 相模灘およびその沿岸地域の動植物相の経時的比較に基づく環境変遷の解明の調査研究 (平成13~17年度) - 平成13年度調査研究報告 -, 2002.09.01, 独立行政法人国立科学博物館 相模灘調査実行委員会 (並河洋・平野弥生・今原幸光・岩瀬文人・柳研介・小川数也)
- ・ 竜串海中公園地区サンゴ群再生対策調査報告書 2002.09, 高知県・財団法人 黒潮生物研究財団
- ・ 益野川河川災害復旧等関連緊急河川環境調査委託業務報告書 2002.12.25, 高知県土佐清水土木事務所・財団法人 黒潮生物研究財団
- ・ 平成13年度西海町サンゴ移植事業報告書, 2003.1, 宇和海海中資源保護対策協議会・財団法人 黒潮生物研究財団
- ・ 平成14年度西海町サンゴ移植事業中間報告書, 2002.2, 宇和海海中資源保護対策協議会・財団法人 黒潮生物研究財団
- ・ 平成14年度竜串海中公園地区の保全活用に伴う竜串集団施設地区の管理方針検討調査報告書, 2003. 3, 環境省・財団法人国立公園協会
- ・ 平成14年度海中公園地区保全活動事業 (足摺宇和海国立公園) 報告書, 2003. 3, 財団法人自然環境研究センター・財団法人黒潮生物研究財団